

令和7年度第1回高知県健康づくり推進協議会 議事要旨

日時：令和7年7月30日（水）18:30～20:30

場所：高知県庁本庁舎2階 第二応接室

方法：対面とオンライン（Zoom）の併用開催

出席者：出席18名、代理出席1名、事務局6名、オブザーバー6名

議題（1）第5期高知県健康増進計画（よさこい健康プラン21）の推進に関する令和7年度の取り組みについて

■「子どもの頃からの健康的な生活習慣の定着」「働きざかりの健康づくりの推進」について

- ・委員より、学校保健委員会の設置について、現在何%ぐらいの設置率なのか、また今後のめどが知りたいとの質問があり、事務局より学校保健委員会の設置率については平成20年度の40.8%と比較し令和6年度の設置率は95.3%と向上しているが、引き続き、全学校で子どもたちの健康課題を協議できる場を設けていきたいと回答した。
- ・委員より、子宮頸がんワクチンを中学校の間に打っていただけるように、小学6年生に、何度も教育をすることで、接種率も高くなるのではないかと思うので、取組を要望するとご意見があった。
- ・委員より、高知家健康パスポートアプリについて事業所オリジナルの健康イベントというのはどういったことを想定しているのか、との質問があり、健康パスポートアプリ事業所アカウントを取得している企業が、企業それぞれの課題に合わせた時期及び内容で開催していただける仕様と回答した。
- ・委員より、健康に対する行動をサポートするツールとして割と定着してきたと思う。体重や血圧管理の動機付けになり、何人かで組む前向きなイベントというのがいいきっかけになってると思うとの意見があった。
- ・委員より、健康イベントパンフレットをどのように周知しているのかと質問があり、従業員の健康を考えていきたい企業や、どのように始めていいのか悩んでいる企業に対し、直接渡したり企業研修会やイベントなどで周知をしていると回答した。
- ・委員より、健康経営に取り組んでいない事業所にどう広めていくかを工夫し意識した広報の在り方というのを考えていただきたいとの意見があった。

■「生活習慣病の発症予防と重症化予防対策」について

- ・委員より、70歳までの雇用が進む中で、労働災害で高齢者の方の骨折などが非常に増えているという状況になってるので、マニュアルを待つことも大事だが、検査だ

けでも先行してできるような体制が取れないのかというのが気になっている。病院に行けばできるが、骨折して初めて骨粗鬆症だったと気付くケースが多いと思うので、定期的に検査の中に入れて気付きも早くなり注意することもできると思う。できるだけ早めに市町村において検査だけでもできる体制をとっていただけないかとの質問があり、国のマニュアルの改訂後は問診だけでも同程度のスクリーニング精度が出るという内容になっており、このマニュアルが変わる前と変わる後では機器の購入をするかしないかという大きいお金の動きがある。県民の負担する検診費用、市町村の負担する検診費用にも大きく影響があるということで、なかなか進まないところもあると回答した。さらに委員より、問診で骨粗鬆症かどうか分かるのかと質問があり、日頃の食生活や毎日何分ぐらい運動しているとか、小魚とかチーズをたくさん食べているとかで同程度のスクリーニングができるという厚労省の説明会があったと回答した。再度委員より、それは無理だと思う。毎日小魚をどれだけ食べてるかを記録してるわけでもなく、その問診だけで測れるとは思えない。きちんと機器で測って数値を見るべきではないかという気はする。お金をかけたくないからかもしれないが、問診で骨粗鬆症が正確に測れるというのは非常に疑問に思っているとの意見があった。

■分野ごとの健康づくりの推進について

- ・委員より、虫歯は減ってきているが、フッ化物洗口が広がればいいと思う。永久歯が生えそろう保育園、小学校、中学校までできれば大分減ると思う。高知市は初年度に必要なものはそろえてくれるので、あとは薬剤をその次の年から買うぐらいで大した負担にはならないと思う。との意見があり、学校や保育園に、人的的にもできるかというようなアンケート調査をして、始めたいところに対しては支援し、高知市や、県立施設には当課のスタッフが行き、導入するにはこんな機材でこんなもの作ってというような指導をしたり、コロナを機にやめているところに、また新たに始めてみませんかとお声掛けをして進めていると回答した。

■社会環境の質の向上について

- ・委員より、今年度の取組の人と人とのつながりの再生に向けたネットワークづくりで、コミュニティソーシャルワーカーの研修は、どんな方で、お金はとらない全くのボランティアということかとの質問があり、養成研修自体は県社協に県から補助金を出してやっているが、コミュニティソーシャルワーカー自体に謝金が発生したりするものではない。主には市町村社協でそういう地域に携わっている方などにこうした研修を受けて、その素養を身につけ日頃の活動にいかしていただくといったことで取り組んでいると回答した。

- ・委員より、体の状態を良くするということが大事だが、年齢が高くなってくると、社会的な部分が大きなウェイトを占めてくるので、今後そういう意味でもこのプランを進めていく上でも、福祉あつての活動ということを十分に意識していくことが重要ではないかと考えている。高知県の場合はあつたかふれあいセンターなど割と地域福祉のスキームという評価の仕組みもあり、県がある程度プランニングして市町村が責任を持ってやるということもあつて、他県に横展開できないかという話も出ているので、今後こういう部分というのはぜひ注目していただきたいと思っているとの意見があつた。
- ・委員より、日本一の健康長寿県構想と非常に大きな体制になって、男性が日本一どころか最下位に近づいているというのが大変気になる。最後は岩手県しかおらず日本一の健康長寿県構想とはちょっと違う方向に動いている。女性も令和元年のときは8位だったのが22位まで落ちているという状況を見付けてしまい、このままこれでいいのかと非常に気になっている。立ち上げたときはものすごく大きく宣伝し力も入っていたが、日本一が別の意味の日本一になったらいけないので、今後の取組として考え方も変えて、スピードアップしていかないとなかなか追い付かないんじゃないかとの意見があり、健康パスポートのユーザー自体も大体男女比が1対2と男性が参加していただけないことが課題としてあつた。令和5年から事業所のアカウントで会社として取り組むウォーキングチャレンジというイベントを実施したところ、男性の参加率が2対3と明らかに増えて、1か月のウォーキングの取組だったが、イベントの前と後でBMI25以上の肥満とされる方が4%以上も減つたという実績が出ている。そういったところからも、個人個人ではなく今年度の生活習慣病対策部会の取組も含めて、組織として取り組んでいただける企画を考えていると回答した。
- ・委員より、健康というものを上げていくのと産業振興というのを合わせていくというのが非常にいい方向であつて、いいものを作っても体を壊したんでは結局進んでいけないし物も売れない、そういう潮流を少しずつ県民のムーブメントとして作っていくということは大事なんじゃないかなと思っている。とご意見があつた。

議題（2）令和7年度各専門部会について

- ・委員より、昨年意見として書面開催だけというのはどうなのかというようなご意見もあつたように記憶しているので、できるだけ対面のほうがいいのではないかとご意見があつた。

以上をもって閉会とした。